

齋藤 直子（大阪教育大学）

いま、再び編み物が流行しています。コロナ禍に家で過ごす時間が増えたこと、K-POP アーティストが編み物動画をアップしていること、タレントが原宿に毛糸屋さんをオープンしたことなど、いろいろな要因があってブームになっているようです。100円均一のショップにもかわいい毛糸がたくさん並んでいて、お金をかけずに楽しむこともできます。一方、1玉数千円するような高級毛糸や、ポップでかわいい韓国からの輸入毛糸など、憧れの毛糸もたくさんあります。

私も子どもの頃から手芸に親しんできて、将来の夢は家庭科の先生でした。いま、教育大学で人権教育の授業を担当するために働いていますが、家庭科の先生をめざすコースの学生さんたちがいまも少しうらやましいです。

私は大学で職を得るために研究をがんばらないといけなかったので、10数年の間手芸を自分に禁止してきましたが（とはいえ、自著の表紙を刺繍でデザインしたりしていましたが）、最近、「編み物は心の安定にもいい」と言われるようになって、「心身の健康は仕事にも大切だ！」と思って、安心して手芸の世界に戻ってこれることができました。今は編み物を心から楽しんでいます。

編み物の世界に戻ってみると、以前と少し風景が変わっていました。以前よりも男性が編み物をする事へのハードルがさがってきているのです。もちろん、以前の編み物ブームの立役者である広瀬光治さんといった男性のニッターさんはこれまでもいましたが、いまはそれが面で広がっているように思います。

オリンピックの飛び込み競技でメダルを獲得しているトーマス・デーリーさんが、プールサイドで編み物をしている姿は有名ですね。「編み物は心の安定にもいい」ということが広まったひとつのきっかけでした。漫画『ニッターズハイ!』は、編み物などの手芸に夢中になる男子高校生たちの物語で、すでに6巻まで出版されています。「任侠編み物芸人」の肩書きをもつアイパー滝沢さんは、編み物の作品集を出版しています。SNSでも編み物をする男性の動画がたくさんあります。

男は仕事、女は家庭という性別役割分業のもと、手芸は「女のもの」に割り当てられてきました。しかし、想像力を働かせて自分でものを作るのは、ジェンダーに関係なく、多くの人にとって心からの喜びであるはずで、誰でも手芸の世界を楽しめるようになるためには、ジェンダー規範が緩むだけでなく、余暇や経済的な余裕が保障されていないといけません。編み物をめぐる歴史や社会的位置付けに関する本も出版されています。また次の機会に、そのような本を紹介していきたいと思います。